



2023年10月10日
第47号

JR 東労組 Yokohama

JR 東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

10月10日号

少し前に新型コロナウイルスに罹った。自宅療養を余儀なくされ、床に伏しながらボンヤリと天井を眺めていると、戦闘機が離着陸する爆音が耳に入ってきた。最近引越越しをした私の家は、厚木基地の滑走路のちょうど延長線上にあり、普段から哨戒機や輸送機の音は耳にするが、戦闘機は桁違いで、空全体に轟くような音だった。

近所へあいさつ回りした際、年配の住民の話によれば「昔より夜は減ったし、ずいぶん静かになったものだよ」と聞いた。そして過去、墜落事故があったことも聞いた。1964年の町田米軍機墜落事故、館野鉄工所墜落事故（大和市）、1977年の横浜米軍機墜落事故である。館野鉄工所の墜落事故現場は自宅からも近い。一度現地を訪れ、フェンス越しの国有地内にある慰霊碑に手を合わせた。

神奈川県は、沖縄県に次ぐ第2の米軍基地県だ。厚木基地に限らず、横須賀基地や相模原補給廠、横浜ノースドックなど、生活圏、職場、あるいは移動する近くに、まだまだ「基地」が存在しているが、基地問題に対する住民運動は、高まりが低いと言われる。しかし、地道な市民運動は確かにある。近所の玄関先には、「厚木爆同」のステッカーがあった。住民で団結しながら、基地問題に向き合ってきた歴史が少なからずある。

有事となれば、その拠点では何が行われるのか？ 地域住民の安全と生活が守られるのか？ 突き詰めれば「戦争への加担」が見えてくるし、日本国憲法と日米地位協定の矛盾にも行き当たるだろう。もう一度、自分の目と足で、身近な基地問題を学び、平和を希求する市民とともに活動していこう。（J・Y）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという思いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。